

特集 《大学の知財系コースの紹介》

東京工業大学の MOT（技術経営）で 学べるキャリアアップ MOT 知的財産戦略コース



国立大学法人東京工業大学 特任准教授 古俣 升雄

要 約

東京工業大学では、社会人向けにプログラムの修了を認定するサーティフィケート・プログラムとして、知的財産戦略コースを提供している。MOT（技術経営）として知的財産と経営との関係性を理解しつつ、企業等の競争力強化に貢献できる知的財産戦略をデザインし、マネジメントできる力を養うことを目指すコースで、鮫島正洋氏（弁護士／弁理士）がコーディネーターとして監修している。同コースは、知的財産分野の教員／研究者／知的財産マネジメントの実務に長けた専門家の講師が担当しており、製造業を中心とした多様な業界からこれまで 13 期で 210 名が受講している。同窓生のネットワークも幅広く構築されており、同窓生には知的財産分野の専門家、実務家として活躍する人材もいる。今後も、知財と MOT という学際的な融合領域において、最先端の内容をふまえ、知的財産戦略の学習と交流の場として提供していく。

目次

1. 東工大キャリアアップ MOT（CUMOT）とは
2. 知的財産戦略コースの立ち上げとコースコーディネーター
3. コースの概要と実績の紹介
4. 受講生のネットワークや修了生の活躍
5. 今後の展開

1. 東工大キャリアアップ MOT（CUMOT）とは

東京工業大学（以下、東工大）には、学位（修士）を認定する MOT（Management of Technology：技術経営）の専門職大学院（技術経営専門職学位課程）があり、主に社会人が働きながら学んでいる。近年、リカレント教育の必要性が高まっているが、時間的負担や経済的負担などが障害となって大学院への進学による学びの機会を得ることが難しいという声もある。キャリアアップ MOT（以下、CUMOT）は、そのような学びの障害を軽くするために、プログラムの修了を認定するサーティフィケート・プログラムとして、平日夜、週 1 回の通学など、社会人が働きながら MOT を学び、キャリア形成を図ることを支援する取り組みとしてスタートした。環境・社会理工学院（技術経営専門職学位課程）が事業主体となり 2008 年度より実施しており、14 年間で 1,500 名を超える社会人が受講、修了している（2022 年 4 月現在）。

受講対象者は、主に「次世代の企業経営を担う社会人」としており、東工大 MOT のエッセンスを学ぶ「エッセンシャル MOT コース」や、本稿で紹介する専門分野に特化した「知的財産戦略コース」など、コース・カリキュラムの趣旨に合った社会人が働きながら受講している。受講者の世代は 20～50 歳代まで幅広いが主に 40 歳前後が多く、多様な業界・業種から、経営者、管理職、研究者、技術者、若手などが受講している。

学習環境は、社会人が働きながら学ぶという点に配慮し、受講場所は社会人が通学しやすい首都圏の田町キャンパス（JR 田町駅徒歩 1 分）、開講は平日の夜 19 時から 21 時（2 時間）を基本とし、コースによっては短期集中、週末などを使って開催している。コロナウイルス感染症 COVID-19 の拡大以降は、Zoom を用いたオンライン講義を中心に実施しており、首都圏だけでなく全国から受講生が参加できるようになっている。2022 年度の知的財産戦略コースにおいては、従来から力を入れている人的ネットワークの交流を目的に対面式での講義も再開している（Zoom によるオンライン講義の配信も併用）。



写真1 田町キャンパスの講義の様子

2. 知的財産戦略コースの立ち上げとコースコーディネーター

東工大 MOT は、2005 年 4 月に大学院イノベーションマネジメント研究科（MOT 専門職大学院（専門職学位課程（修士）・技術経営専攻／博士後期課程・イノベーション専攻））として創設され、2016 年 4 月の本学の教育改革に伴い、技術経営専攻は環境・社会理工学院 技術経営専門職学位課程となった。研究科創設時に「知的財産分野」として教員が在籍しており、CUMOT 知的財産戦略コースは 2009 年度に当時の教員が中心となって開講した。

そして、2010 年度より、鮫島正洋氏（弁護士／弁理士、内田・鮫島法律事務所代表）にコースコーディネーターとして着任いただき、「MOT（技術経営）」として知的財産と経営との関係性を理解しつつ、企業等の競争力強化に貢献できる知的財産戦略をデザインし、マネジメントできる力を養うことを目指すコース」として提供し続けている。鮫島氏は東工大の卒業



写真2 鮫島正洋氏

生であり、物づくり企業向けの知的財産権法を中心とした技術法務、IT 関連企業向けのビジネス法務、知財経営に関するコンサルティングなど、知的財産戦略の第一線で活躍しており、下町ロケットの神谷弁護士モデルとしても有名である。コースコーディネーターは、カリキュラム開発や実施、運営、評価といった役割を担い、鮫島氏は知的財産分野の人材育成の重要性を意識しており、後述する同窓会の開催など、人的ネットワークの構築にも注力している。

3. コースの概要と実績の紹介

知的財産戦略コースのカリキュラムは、東工大 MOT をはじめとする知的財産分野の教員／研究者／知的財産マネジメントの実務に長けた専門家の講師が担当している。受講場所は東工大田町キャンパスで毎週水曜の 19～21 時、全 12 回（24 時間）で実施している（2022 年度実績、次ページ表 1「2022 年度知的財産戦略コーススケジュールと学習テーマ」）。経営に対する知的財産の影響を多方面から理解できるカリキュラム内容であり、講義&ディスカッション（インプット）とグループ課題（アウトプット）による学習形態となっている。

グループ課題は受講生 4～5 名が一つのチームとなり、MOT と知財戦略の学際的な領域についてケーススタディ等を行うものである。ここでは、講義で得た知識を最大限に活用することによって、知識の定着・応用を実践することを目的としている。

これまで 13 期の開講実績があり、延べ人数で 210 名の社会人が受講している。年代を見ると 30～39 歳が最も多く、職種と合わせてみると、40 歳前後のマネジメントを担う人材や専門性を高めている人材が多く参加している（表 2・表 3）。

業種や企業規模等では、自社に知的財産部門を持つ大手の製造業を中心に参加しており、自社の人材育成の枠組みとして、継続的に派遣している企業もある（表 4・表 5・表 6）。専門サービスは、特許事務所や弁護士事務所などで、公的機関には特許庁からの参加実績もある。また、近年ではベンチャー企業からの参加も増えており、2022 年度においては、受講生 12 名のうち 3 名がベンチャー企業からの参加（経営者や CTO）となっている。

受講生からの評価は、受講後にアンケートで回答をもらっており、授業の総合的な満足度は平均で 4.7、

表1 2022年度知的財産戦略コーススケジュールと学習テーマ

月日	回	学習テーマ	担当	所属・役職等
5/21 (土)	-	受講ガイダンス	鮫島 正洋	内田・鮫島法律事務所 代表パートナー・弁護士
			古俣 升雄	東京工業大学特任准教授
	1	知的財産戦略の理論とその適用限界	鮫島 正洋	
5/25	2	産学連携の場面における知財マネジメント論	仙石 慎太郎	東京工業大学教授
6/1	3	サーキュラーエコノミー時代のビジネスと知財マネジメント	妹尾 堅一郎	NPO 法人産学連携推進機構 理事長
6/8	4	デジタル化とデータ利活用時代に向けた知財マネジメント	小川 紘一	東京大学政策ビジョン研究センター シニア・リサーチャー
6/15	5	標準化交渉の現場から	前田 亨	株式会社 NTT ドコモ 知的財産部 渉外担当 弁理士
6/22	6	IP ランドスケープ論～知財情報から事業戦略を構築する～	山内 明	株式会社知財ランドスケープ 代表取締役
6/29	7	知財分析手法についての考え方	武藤 謙次郎	イノベーションリサーチ株式会社 取締役副社長
7/6	8	ベンチャー企業における知財戦略・オープンイノベーションの考え方	丸 幸弘	株式会社リバネス 代表取締役 CEO
7/13	-	グループ研究計画発表	鮫島 正洋	
7/20	9	オープンイノベーション時代の知財部のあり方	川名 弘志	KDDI 株式会社 シニアエキスパート (知的財産戦略)
7/27	10	知財とファイナンスの交錯	小林 誠	株式会社シクロ・ハイジア 代表取締役 CEO
9/3 (土)	11	特別講義	鮫島 正洋	
	12	グループ課題 最終成果発表会		

表2 年代別受講者内訳

年齢		
20～29歳	9	4.3%
30～39歳	80	38.1%
40～49歳	76	36.2%
50～59歳	38	18.1%
60歳～	7	3.3%
	210	100.0%

表3 職種別受講者内訳

職種		
経営者	17	8.1%
管理職	62	29.5%
専門職	106	50.5%
研究者	14	6.7%
一般	9	4.3%
その他	2	1.0%
	210	100.0%

表 4 業種別受講者内訳

業種		
製造	118	56.2%
サービス	2	1.0%
専門サービス	37	17.6%
情報通信	16	7.6%
金融	1	0.5%
運輸・物流	0	0.0%
建設	0	0.0%
卸・小売	2	1.0%
コンサルタント	11	5.2%
公的機関	17	8.1%
その他	6	2.9%
	210	100.0%

表 5 企業規模別受講者内訳

企業規模等		
大手	128	61.0%
中堅・中小	42	20.0%
新規・その他	33	15.7%
外資系	7	3.3%
	210	100.0%

表 6 受講者所属先の例

所属先の例
旭化成株式会社、味の素株式会社、AGC 株式会社、株式会社 NTT ドコモ、キヤノン株式会社、株式会社神戸製鋼所、株式会社資生堂、JFE エンジニアリング株式会社、ソニー株式会社、大日本印刷株式会社、東レ株式会社、株式会社ニチレイフーズ、日産自動車株式会社、日本電気株式会社、日本電信電話株式会社、株式会社日立製作所、株式会社ブリヂストン、三菱電機株式会社、国立研究開発法人科学技術振興機構、国土交通省、特許庁、など

今後の自分の業務への役立度は平均で 4.5（5 段階評価、修了生 115 名の回答実績）と、高い評価を得ている。また、「実務に携わっている一流の講師陣の話は納得性が高いだけでなく、すぐに自分の仕事に活かせるため、とてもよかった」「知的財産において、さまざまな角度からのアプローチがあり、またアプローチする人によって様々な考え方があることを学びました」「他社の方々とディスカッションをしながらグループ研究をしていき、今回学んだことを使ってアウトプットしていく作業はとても有意義でした。その中で知的財産に関わるネットワーク、人脈の構築ができたことも財産です」といった受講生の声もいただいている。



写真 3 グループ課題発表会の様子

4. 受講生のネットワークや修了生の活躍

知的財産戦略コースの開催において、鮫島氏が注力しているのが人的ネットワークの構築である。知的財産を活かしたビジネスや社会活動においては、人的ネットワークの重要性が高く、同コースの設立時から毎年、年に 2 回、同窓生が集まる機会を設けている。1 回は、コースが終了する 8 月末頃のグループ課題最終発表会で、もう 1 回は 1 月末頃に鮫島氏が主催で同窓会を開催している。



写真 4 同窓会の様子

いずれも毎回、40 名前後の同窓生が参加し、同期だけでなく期をまたいだ交流も行われている。

また、同窓生には知的財産分野の専門家、実務家として活躍する人材も多く、現在の知的財産戦略コースにおいても、前田亨氏（株式会社 NTT ドコモ）や武藤謙次郎氏（イノベーションリサーチ株式会社）が講師として活躍している。

5. 今後の展開

今後の展開として、鮫島氏は「この 2 年間はコロナ禍の中、十分な活動ができていなかったことを踏まえ



写真5 仙石慎太郎教授

つつ、より一層、時宜に沿ったカリキュラム・講師を選定し、知財とMOTという学際的な融合領域において、最先端の内容を提供していきたい」と語る。また、コース担当教員の仙石教授は「戦略的な知的財産

マネジメントを修得するためには、その多様な側面について、理論と実践の両面から学ぶ必要がある。本コースはそのようなニーズに応えるべく、多分野の有識者を講師陣に迎え、知的財産戦略の学習と交流の場を提供していきたい」としている。

知的財産戦略コースは、コーディネーターの鮫島氏をはじめ、講師および受講生、スタッフと多くの方々に支えられてきた。その成果として、同じような志や意識を持つ知的財産分野に関わる多くの仲間ができ、人的ネットワークを広げていただくことができています。ご協力いただいている皆様に感謝を申し上げますとともに、今後も、社会人の学びの場として知的財産戦略コースを実施、提供し続けることで同分野の発展に貢献していきたい。

以上
(原稿受領 2022.8.17)